

東洋ライス

4

受託加工が好評

米価が高くておいしい「金芽米」。コメの品種や産地を問わずに精米できるからこそ、金芽米で日本の稲作を応援できる。東洋ライス社長の雑賀慶二は「金芽米による日本のコメ農業の活性化戦略」を掲げている。

全国の農家が育てたコメを東洋ライスが金芽米に加工する。最小3トから受託し、海外でも展開する。高付加価値のコメを高価格で販売できるビジネスモデルを構築し、生産者の利益向上や後継者問題解決に取り組む。雑賀は「6次産業の活性化につながる。水田が増えることにより、日本の原風景も守れる」と笑顔をみせる。



「コメの新分野」を創出

「金芽米」で農業活性化



日本のコメ農業を活性化するため、雑賀社長(中央)はコメ農家とのふれあいを大切にしている。

農家と二人三脚

.....

原里山の夢ファーム(広島県庄原市)、ファームドウ(前橋市)は地元産のコメを金芽米にして販売している。東洋ライスサイタマ工場(埼玉県坂戸市)に東日本地域で収穫された玄米が集まって、これを加工し、金芽米にして出荷する。工場長の清水

敏行は「東日本のコメ農業活性化の一翼を担っている」と胸を張る。従業員も農家に足を運ぶ。思いは伝わっている。

可能性を追求

東洋ライスは1961年の設立以来、一度も赤字転落していない。14年3月期は売上高97億円。15年3月期は同100億円の大台が視野に入る。石抜き機からスタートし、精米機メーカーとして成長。精米技術を生かし、無洗米、金芽米と

だが旗を振るだけでは意味がない。「現場を知り、農家と二人三脚で、コメの総合メーカーとしての責任を

「10代後半のころに少量精米サービスで家業を立て直したが、稼いだだけの人生ではつまらないと思った。(この項おわり。山田諒が担当しました)

無断転載・複写禁止 (株)日刊工業新聞社